

# ワケネギ「東京小町」の栽培について

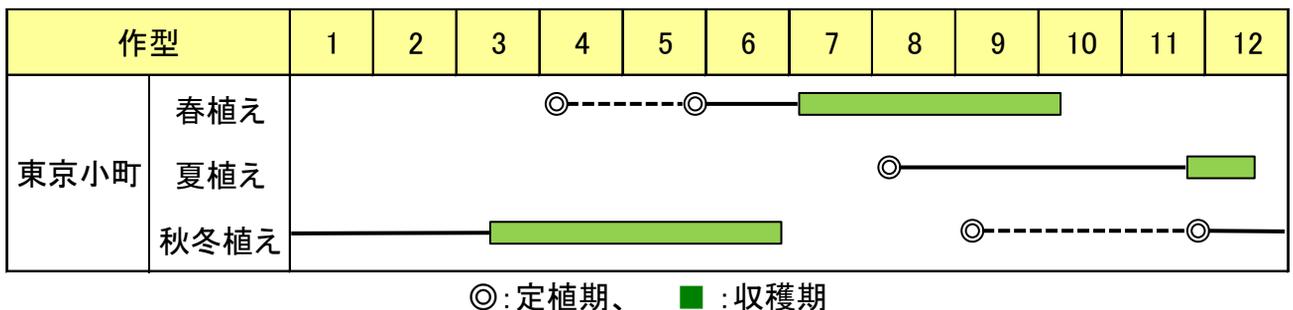
## 1. 特徴

- 『東京小町』は、春・秋の品質は良いが夏に葉が細く淡くなりやすい『在来系統』の改良を目指し、夏季の品質が良い『夏用系統』を交配し、選抜した品種です。
- 夏季に細くならず葉色は濃く、葉が厚く葉折れしにくい品種です（図1）。また、抽だいが少ないため、5月から6月の出荷も可能です（図2）。
- 『東京小町』1品種による周年栽培が可能ですので、数品種を維持する手間やコストを減らせます。



図1 「東京小町」の調整姿

図2 「東京小町」の作型例



## 2. 栽培方法

### ① 施肥量

- 10aあたりの成分量で、窒素-リン酸-カリを20-24-20kgを目安に増減します。
- 有機質肥料や緩効性肥料の場合は全量基肥として施用します。

### ② 定植

- 9220または9215のマルチを使用。
- 冬は銀黒か黒、それ以外の時期は白黒マルチ。
- 定植苗は、苗長が25cm程度になるように葉身を切り揃えます。
- 深さ6～8cmの植え穴に1～2本の苗を定植します。深すぎると分けつしにくくなります。



図3 「東京小町」の定植

### ③ 収穫

- ④ 15~20本に分げつした頃が収穫適期です（図4）。
- ④ 収穫時は、葉を折らないように株ごと抜き取ります。

## 3. 出荷調整

- ④ 収穫物を1本ずつに丁寧に分けます。
- ④ 葉を2~3枚程度残して、薄皮をむきます（図1）。
- ④ 発根しないように根を切りますが、盤茎は残します（図5）。
- ④ 根を切るときに盤茎まで切除すると、その後葉鞘部の中心が下に伸長し飛び出すため、品質を損ないます。
- ④ 鮮度保持袋に入れて出荷します。

## 4. 病害虫防除

- ④ アザミウマおよびハモグリバエ防除のため、春~夏季はこまめな薬剤散布が必要です。
- ④ 農薬の登録分類は「ネギ」（「ワケギ」ではない）となりますので注意して下さい。
- ④ UVカットフィルムを展張したハウス栽培、防虫ネット（目合い0.6mm以下のネットまたは目合い0.8mm以下の赤色ネット）によるトンネル栽培が必要です（図6）。

## 5. その他

- ④ 春（5月頃）に培養苗を購入した場合、8月に収穫し、そこから8月定植の苗をとれば（1株15本程度）、11月頃収穫できます。
- ④ 施設栽培の場合、1年間に3作の栽培が可能です。
- ④ ウイルス感染による収量低下が懸念されるため、毎年、新しい苗を購入することを推奨します。
- ④ 冬期の露地栽培は、葉先の枯れこみが発生することがあるため、施設栽培もしくは12月頃にトンネル被覆を行い保温することが効果的です。



図4 収穫適期の「東京小町」



図5 盤茎部分



図6 「東京小町」のトンネル栽培